

2006年度 PCサーバ国内出荷調査報告

株式会社ノークリサーチ(本社東京都:代表伊嶋謙二 03-5244-6691)では06年度の国内PCサーバの出荷状況を調査した。07年度の予測も併せて調査、報告している。

<06年度PCサーバ市場のポイント>

06年度PCサーバ市場は、「成長過程の一服」状態

- 台数は対前年比5.8%アップの一桁の低成長、550,220台
- 金額は「価格の二極化」による相殺で、トータルでは横ばいへ

経済環境とIT環境の見直し機運もあり「守りの投資」で鈍い新規投資

トップNECがシェアを再び伸張。目立つHPの躍進、デルの急激な失速

大型商談が複数あり市場の伸びを支えた。下期は大口を除くと成長が急速に鈍化

ラック、ブレードは堅調に増加。統合化、小型化、集約化などへ動く

07年度は「フラット成長の時代」に突入だが、高単価、高機能サーバに期待感

対象期間:(06年度実績)06年4月から07年3月

(07年度予測)07年4月から08年3月

対象メーカー:電子情報技術産業協会(JEITA)自主統計参加及び未参加メーカー

日本電気、富士通、デル、日本IBM、日本HP、日立製作所、東芝、三菱電機など

対象機種:電子情報技術産業協会(JEITA)定義に準ずる

調査方法:当該メーカーに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

調査時期:07年5月

[06年度出荷状況]

- 対前年比5.8%アップの低成長、市場は550,220台へ -

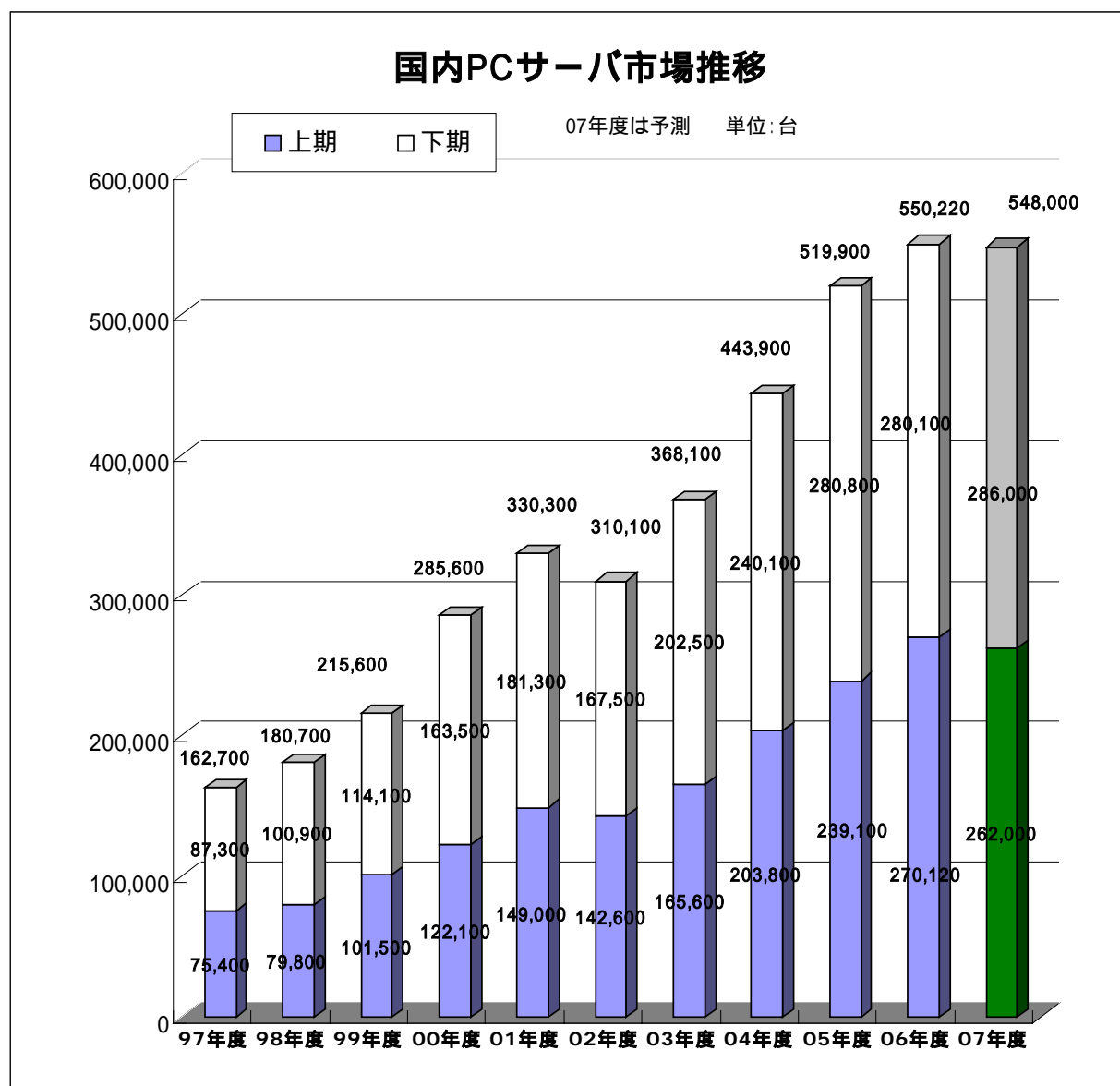
06年度は対前年比5.8%アップで、550,220台市場にとどまった。過去3期連続で2桁の高い成長を示したのに対し、06年度は一桁の5.8%の成長率だ。しかも内容では超大型商談約3万台が含まれているため、それを除くと実質的な市場成長率は急速に鈍化している。業種的には製造業、流通業の中堅から大手企業を中心に情報系サーバの増設利用は相変わらず堅調だったが、金融業、証券の需要は一巡感で鈍い。

上期はNECとHPの2社で獲得した大型案件が、市場を大きく伸張させたが、一転下期は大型案件を除くと、全般的な新規導入意欲の停滞感などが目立ち始め、対前年比でみると若干のマイナスとなっている。

金額市場では、1wayタワーの低価格サーバの販売割合が高いため、平均単価の下落傾向はまだ続いている。だが一方では2Pラック型サーバ、ブレード型サーバなどの増加により極端な平均単価の下落傾向にはないが、トータルでは前年比横ばいの2,896億円となった。マルチコアやブレードなどの単価上昇の要素も見られたが、大型案件や低価格のエントリーサーバ伸張による単価の下げ効果もあり、結局相殺されて、金額市場は停滞した。

国内PCサーバ総出荷台数推移/予測（97年度から2006年度実績、2007年度予測）

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
97年度	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
98年度	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
99年度	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
00年度	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
01年度	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
02年度	142,600	95.7%	167,500	92.4%	310,100	93.9%
03年度	165,600	116.1%	202,500	120.9%	368,100	118.7%
04年度	203,800	123.1%	240,100	118.6%	443,900	120.6%
05年度	239,100	117.3%	280,800	117.0%	519,900	117.1%
06年度	270,120	113.0%	280,100	99.8%	550,220	105.8%
07年度	262,000	97.0%	286,000	102.1%	548,000	99.6%



[06年度メーカーシェア]

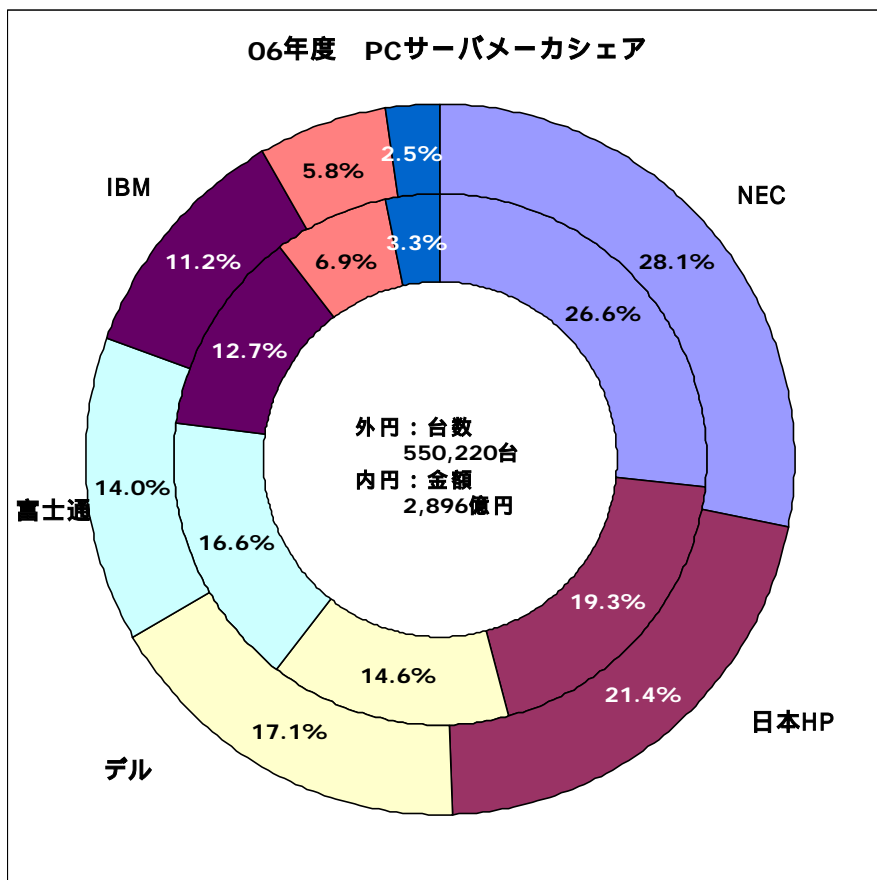
- NEC がシェア拡大。HP が好調で 2 位に、デルは大きく失速

メーカーシェアでは大きな動きが見られた。「NEC が 28.1%のシェアで再び大きくシェアを高めた」ことと、一時は「トップ NEC にシェア 1 ポイント以内に肉薄していたデルの不調感」だ。逆に「HP がデルをかわして 2 位に浮上」した。「NEC と HP の 2 強」時代の幕開けだ。

NEC は絶好調だ。「公共系で受注した大型案件」が、市場全体を牽引した。それ以外でも全国のチャネル販売による「中堅・中小企業への細かな商談」とメーカー直販を中心とする官庁や流通大手への一括受注などで、手堅く実績を収めて、トータルで 28.1%と大きくシェアを高めている。

2 番手の HP は、流通業での数千台規模の大型案件に加えて、大手 SI 企業による「大都市、大手企業、部門利用」へのラック販売などで大きく実績を伸ばして、デルをかわして 21.4%で 2 位となっている。加えて下期からは、1P タワーのエントリーモデルも好調で、台数シェア獲得の要因になっている。一方デルは前期に見られた大型案件がなく、しかも得意の「大都市、中堅企業の部門用途、中小企業向けの 1P タワー販売」も NEC、HP による攻勢と中小規模需要の一服感などの要因で、マイナス二桁以上の対前年割れとなっている。

富士通、IBM は PC サーバトータルとしては、上位 3 社に引き離された 2 社という位置づけになっている。富士通はフラット、IBM は前年比マイナスの実績となっている。共通しているのが「大型案件」がないこと、「台数を稼ぐ低価格の販売展開」をとっていないところだ。富士通はソリューションを絡めた展開で、中堅企業以上には実績を収めているが、台数的には IBM と並んで 2 番手グループとなっている。IBM はブレードの実績ではトップシェアをキープしている。数千台クラスの商談はないが「メーカー直販とチャネルとの協業による着実なブレード展開」が浸透している。初期段階で目立った研究所などの需要に加え、金融、製造業などの民間企業への導入が進んでいる。



[07年度市場展望]

- 07年度はフラット成長でPCサーバ市場は「2回目の踊り場」に突入。ブレードは10%シェアに
07年度トータルでは548,000台、対前年比-0.4%減と前年を下回る市場となることが予想される。

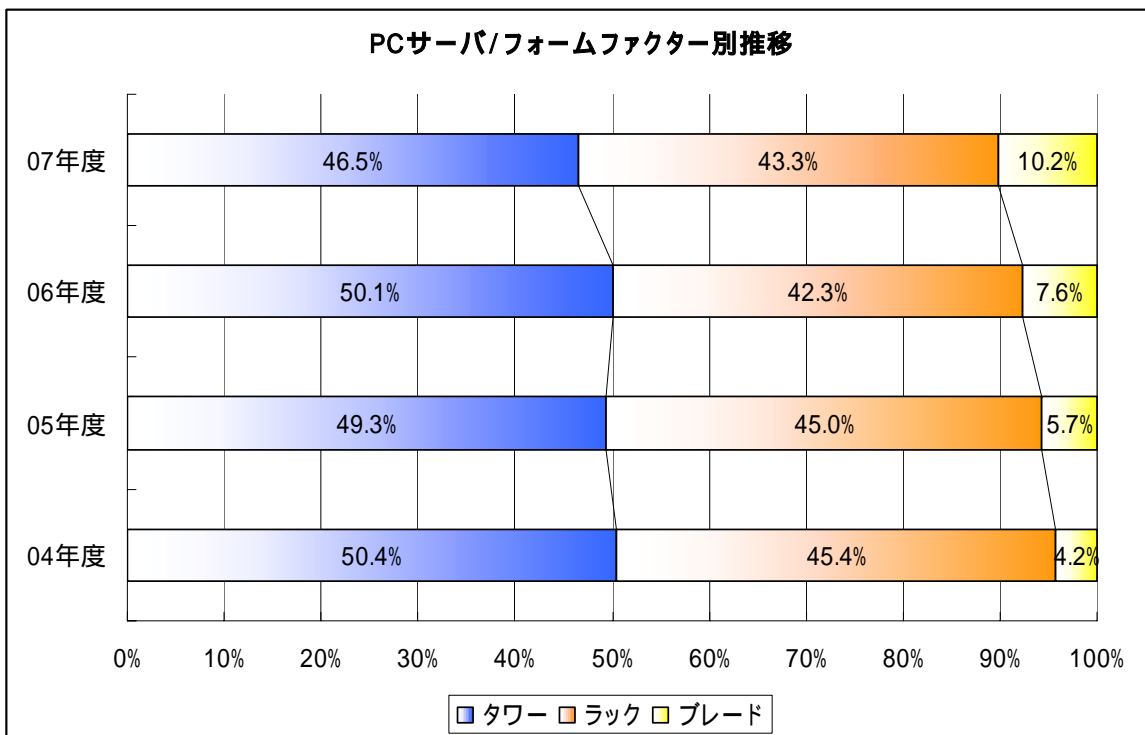
PCサーバ市場の低迷が予想される要因は3つ考えられる。

景気回復はやや弱含みで、依然まだら模様の市況感、特に中小が停滞気味
ネットワーク需要、事業拡大による新規サーバ導入の増加はあるが前年並み
大きく需要を喚起するエポックがなく、むしろ「サーバ見直し(守り)」傾向

07年の景気動向は依然として大企業中心とした製造、流通業やネットワーク関連ビジネス用途での需要が大きいが、全般的にはまだらに推移していく。そのため、全般的なIT投資はそれほど活性化しない見通しだ。むしろ「内部統制、J-SOX」などに見られる「企業のコンプライアンスブーム」は投資よりも既存ITの見直しなどに需要マインドが働き、新規需要による単純な市場の拡大方向が見えにくい。

しかし統合化ニーズの高まりや根強いネットワーク系の新規需要によって、ブレードなどの高性能・高価格サーバは堅調に伸びることが予想される。

フォームファクター(サーバ形状)では1Pのタワー型によるエントリ、2Pのラックが需要の中心だが、ブレードの需要も確実に拡大する動きを見せている。ブレードはまだ全体の7.6%に過ぎないが、サーバ統合化や小型・集約化のニーズも高まりつつあり、07年度は10%台のシェアになりそうだ。



当調査データに関するお問い合わせ



株式会社 ノークリサーチ
 担当：伊嶋 謙二 いしま
 e-mail: pressr@norkresearch.co.jp
 〒120-0034 東京都足立区千住 1-4-1 東京芸術センター1712
 電話 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
 URL: <http://www.norkresearch.co.jp>